

高校生山岳部員に関するアンケート調査結果（短縮版）

猪 熊 隆 之（中央大学山岳部監督）

このたび、全国高等学校体育連盟登山専門部（以下、高体連）に協力いただき、全国の高等学校山岳部員にアンケートを実施した。このアンケートは、山岳部員の活動内容や卒業後の登山とのかかわり方について、全国規模で調査・分析し、その情報を共有することで、大学山岳部の在り方やその活動内容をどのように発信していくか考えることを目的とした調査である。

ご承知の通り、大学山岳部は1980年代以降、慢性的な部員減少に悩まされており、大学によっては1学年の部員がゼロとなる年もある。また、高校山岳部出身者で大学山岳部に入る部員が少ない傾向にあり、折角入部しても退部する部員も多いことから、今回のアンケート結果を大学山岳部の活動に生かしていく一助になればという思いで、調査結果の一部を記載する。なお、個々の調査結果に書かれているコメントは、私の個人的な感想であることから、その点、差し引いてご活用いただければ幸いである。

アンケート実施にあたって、調査方法についてのアドバイスや高体連への協力要請など多大なるご協力をいただいた佐橋秀男先生、谷口浩平先生、大西浩先生に心より感謝申し上げる。

調査方法

2021年2月上旬、46都道府県（沖縄県は加盟していない）の高体連加盟学校にアンケートを送付。入力用フォーム画面を猪熊の方で用意し、ホームページ上で回答を入力していただく方法を取った。4月中旬の締め切りまでに25都府県92校から回答があり、

計740名あまりの生徒から回答を得た。

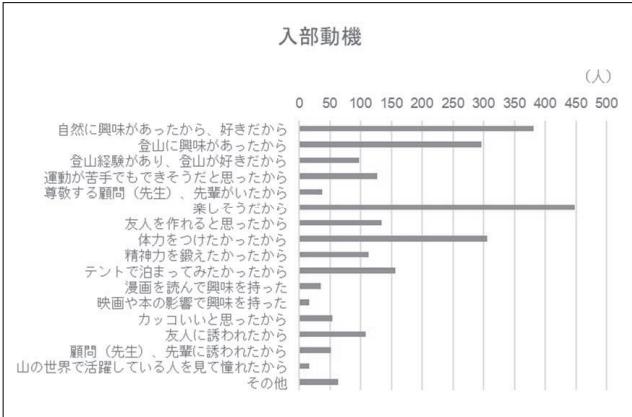
調査結果

以下の結果は、回答を頂いた30項目のうち、入部動機や山岳部活動から得られたもの、卒業後の進路や登山とのかかわり方など一部を抜粋したものである。（8から始まるが質問番号であることをご了承いただきたい）。残りの結果については下記URLを参照いただきたい。

<https://blog.goo.ne.jp/yamatenwcn/e/0964b26747d0891d1f84c198a4425ce7>

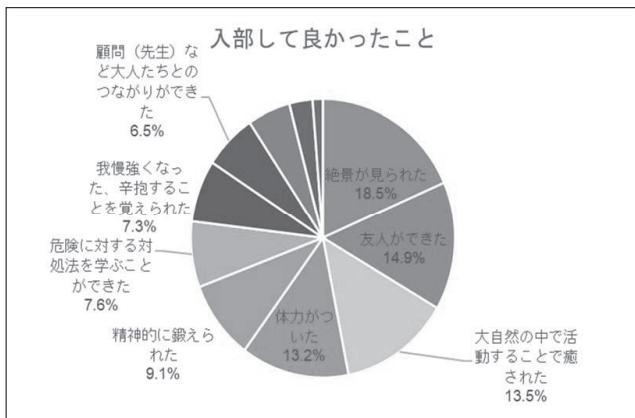
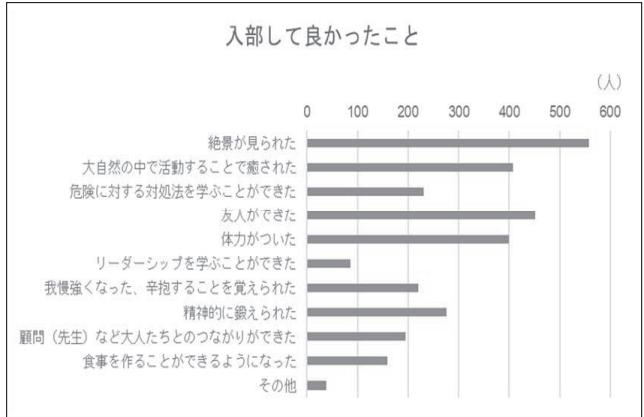
1. 登山に関する調査研究

8. 山岳部に入った動機



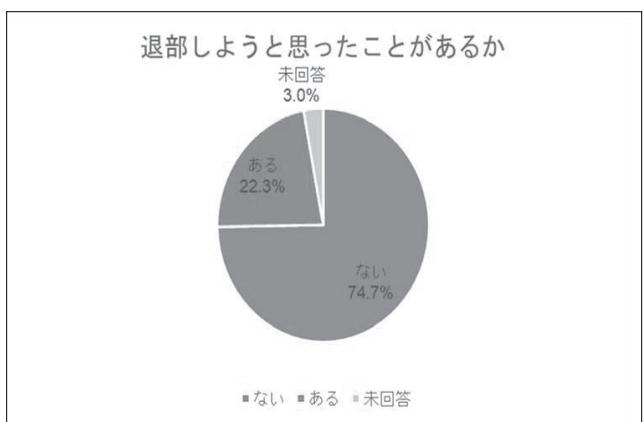
- 第1位 楽しそうだから
 第2位 自然に興味があったから、好きだから
 第3位 体力をつけたかったから
 第4位 登山に興味があったから
 以上が多数を占める。楽しいことや興味があることをやりたいという傾向が見られる。

9. 山岳部に入って良かったこと



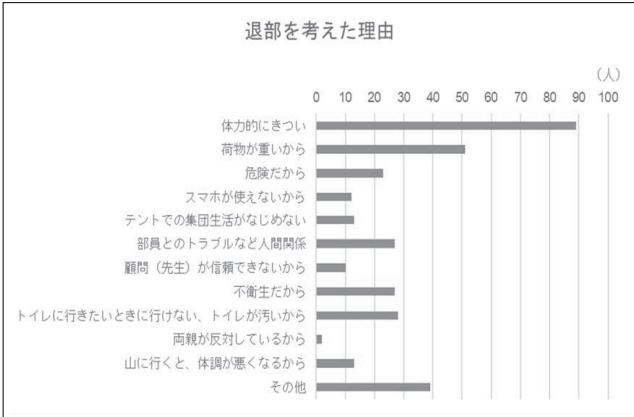
絶景や大自然の中での癒しなどは、大人の登山者の傾向と変化がないが、第2位の「友人ができた」や、第4位～7位の「体力がついた」「精神的に鍛えられた」「危険に対する対処法を学ぶことができた」「我慢強くなった、辛抱することを覚えられた」など人間的な成長と人間関係の構築、知識の習得などが大きい割合を占めるのは大人とは違った傾向が見られる。

10. 退部しようと思ったことがあるか



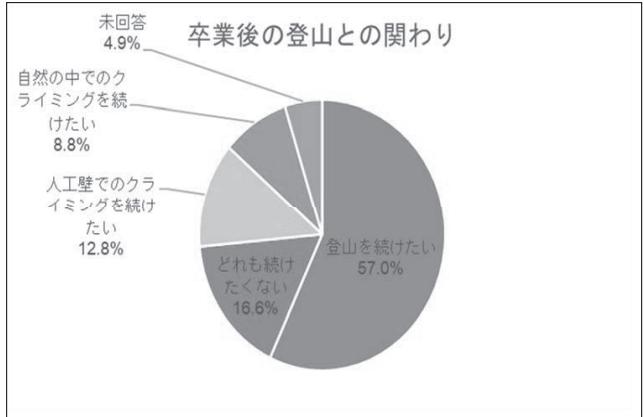
「ある」が私の予想より少なく、「ない」が4分の3を占めるのは、友人の存在や顧問の先生方の努力の賜物だと思われる。

1.1. 退部を考えた理由



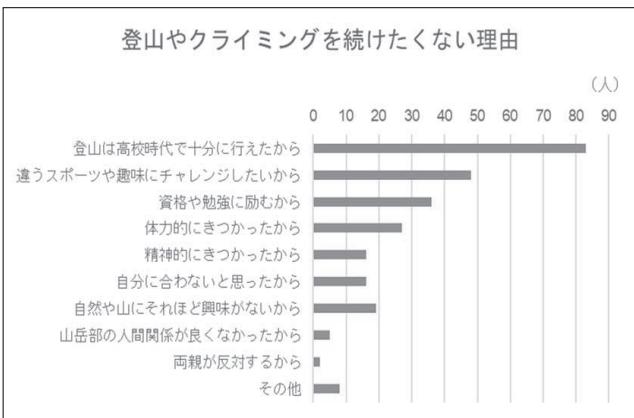
退部を考えた理由について、体力的な問題が多くを占め、次いで衛生的な問題になっている。トイレ問題が多いのは、自宅や公衆トイレのほとんどがウォッシュレットになっているなど日常使っているトイレ環境が大きく向上した結果とも言える。他には、人間関係が多いことにも注目したい。

1.6. 卒業後に登山やクライミングを続けたいか



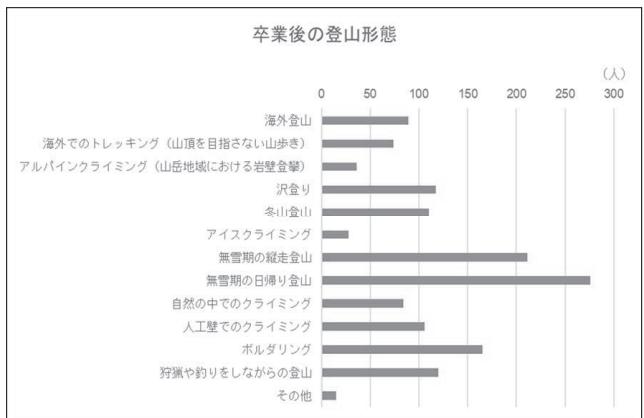
登山を続けたいと答えた者が6割近くを占め、クライミングを続けたいと合わせると8割近くに上るのは嬉しい結果である。9. の「入部して良かったこと」が登山を続けたい要因であろう。

1.7. 続けたくない理由



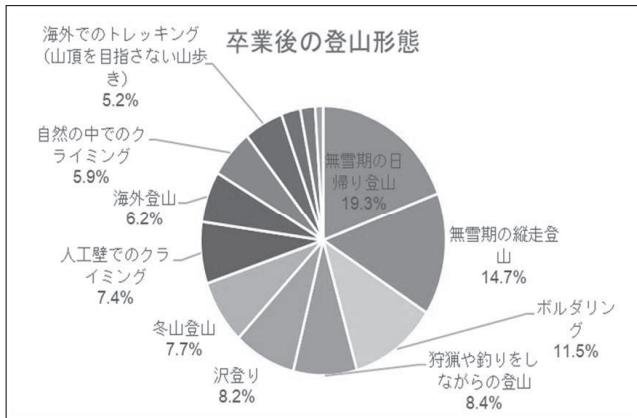
山行日数が新型コロナウィルスの影響で少なくなっているにも関わらず、「登山は高校時代で十分におこなえたから」がもっとも多いのは矛盾している結果に思えるが、山岳部での活動にあまり積極的でない部員がこう答えてる可能性がある。また、「面倒くさいから」という意見が散見されたのは現代的であると感じた。

1.8. 卒業後におこないたい登山形態

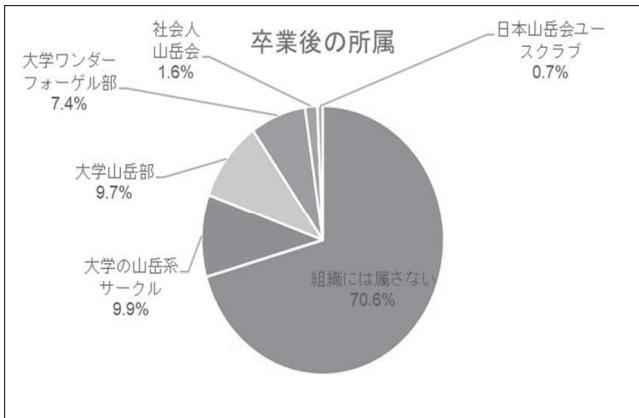


1. 登山に関する調査研究

19. 卒業後の所属

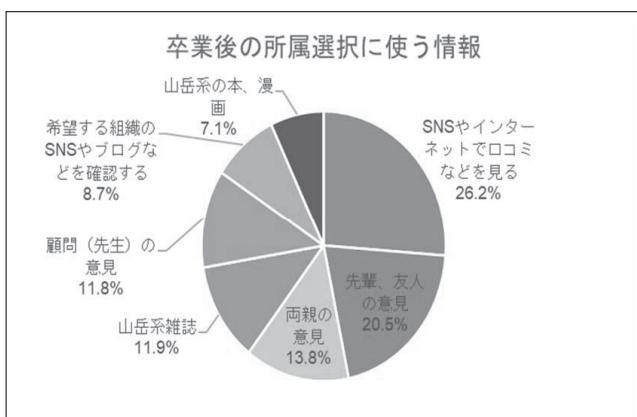


無雪期の日帰りと縦走登山が3割以上を占めている。沢登りや冬山登山についてはそれぞれ10%に満たない。一方、ボルダリングが第3位に入り、狩猟や釣りをしながらの登山が第4位に入っているのは、「楽しみながら登山をしたい」という8.の入部動機に通じるものがある。



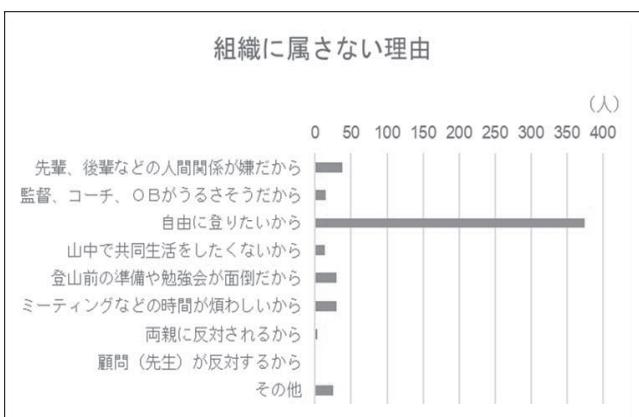
組織には属さないが7割を超える。しかしながら、大学山岳部やワンダーフォーゲル部がそれぞれ10%、7%と健闘している。これを多いと見るか少ないと見るかは意見の分かれるところであろう。

20. 卒業後の所属選択に使う情報

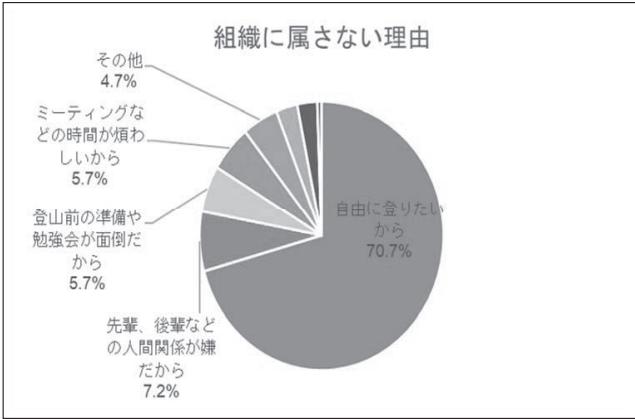


情報の入手は、SNSやインターネット等の口コミがもっとも多いが、先輩、友人、両親、顧問などの意見を合わせると5割弱になり、それを上回る。周囲の意見を聞いて判断する傾向が強いと思われる。

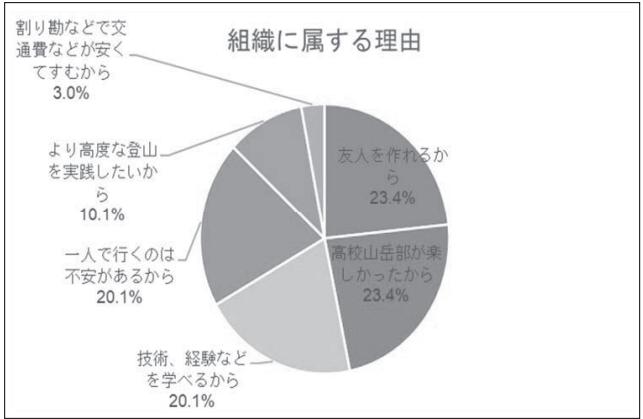
21. 組織に属さない理由



2.2. 組織に属したいという理由

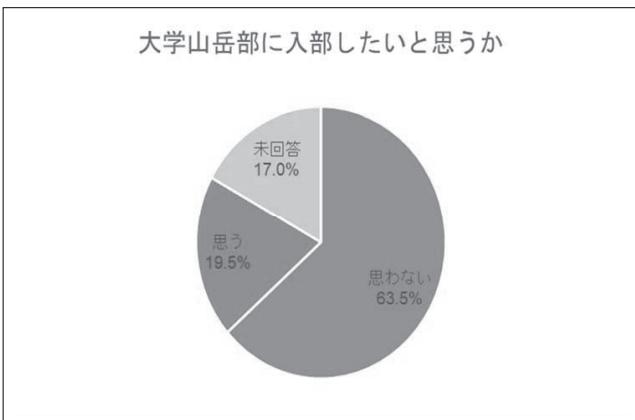


「自由に登りたいから」が圧倒的に多く、「面倒くさい」「ミーティングなどに時間を取られる」など自分の時間を大切にしたいという意識が強い。先輩や後輩との人間関係についての問題は意外と少なかった。



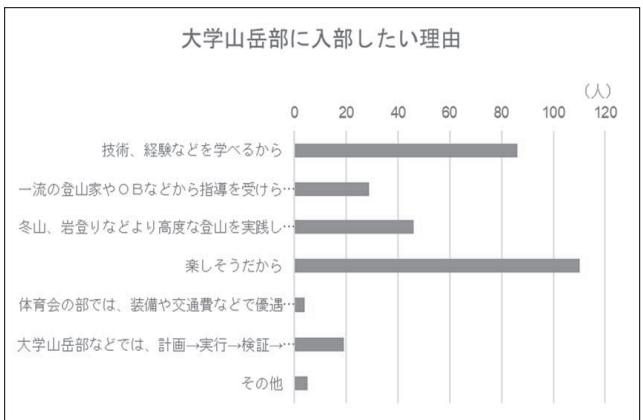
逆に、組織に属することを考えている理由は、「友人を作れるから」「高校山岳部で楽しかったから」「技術、経験などを学べるから」「一人だと不安だから」の4項目で9割近くを占める。

2.3. 大学山岳部に入部したいと思いますか？



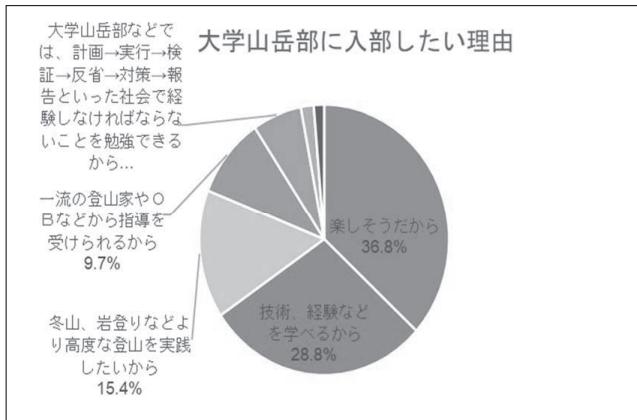
残念ながら、想定していた通り、「思わない」が多数を占めた。しかしながら、「思う」も2割前後いるのは心強い結果である。

2.4. 大学山岳部に入部したい理由

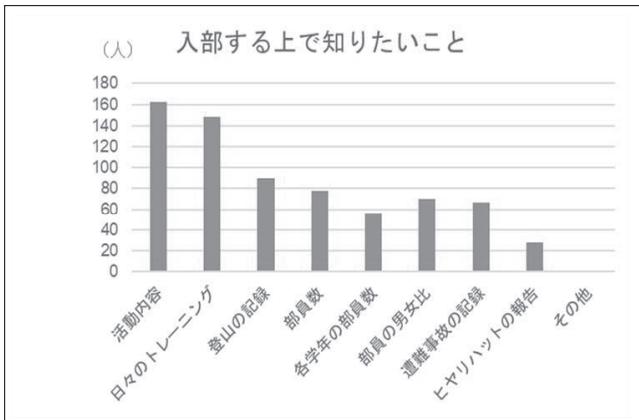


1. 登山に関する調査研究

25. 大学山岳部について知りたいこと

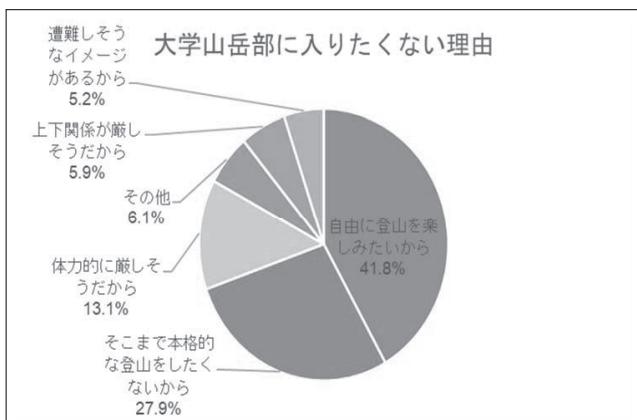


高校山岳部に入部した理由と同様、「楽しそうだから」がもっとも多い。以下、「技術、経験などを学べるから」「より高度な登山を実践したいから」が続く。これらを見ると、高校時代よりも高度な登山を実践したいという学生が大学山岳部を目指し、その学びの場として大学山岳部を選んでいることが分かる。



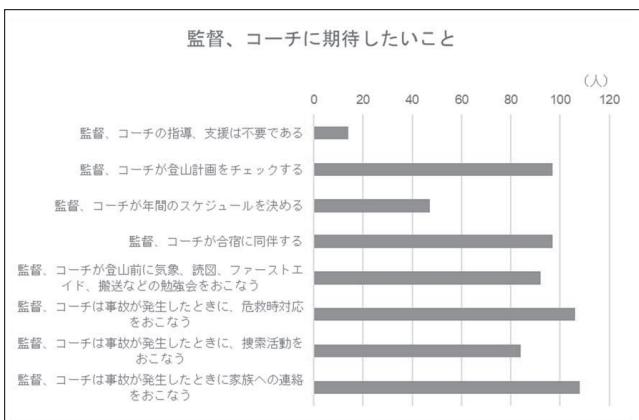
入部するうえで知りたいこととしては、「活動内容」と「日々のトレーニング」を挙げる人が多い。大学山岳部の活動内容を知ってから入部するかどうかを決めたいということだろう。また、部員構成についても知りたいという意見が多い。

28. 大学山岳部に入りたくない理由



組織に属さない理由と同様、「自由に登山を楽しみたいから」がもっと多く、次いで「そこまで本格的な登山をしたくないから」が3割弱を占めた。卒業後も登山を楽しみたいが、冬山やアルパインクライミングまではやりたくない、という人が多いものと思われる。また、大学に行かないため、という意見も散見された。

29. 監督、コーチの役割として期待するもの



こちらは意見が分かれた。「監督、コーチの指導や支援は不要である」と思っている人はごく少数であり、監督、コーチの指導や支援に期待している人が多いと思われる。

30. 山岳部の在り方についての自由意見

沢山の多用なご意見をいただいた。それらはいくつかの傾向に分かれるので、私の方で整理させていただいた。

1) 自由、気ままに、好きなときに好きなメンバーで山に行く

圧倒的に多かったのがこの意見。21や28の回答とも一致する。この「自由」が相手の「自由」も尊重することなのか、「自由」は大きな「責任」を伴うことを自覚しているのかどうかはともかくとして、今の高校生は、組織に縛られることを嫌い、自分の思うままに生きていくことを望む傾向にあると言える。

2) 先輩後輩関係なく、率直な意見を言い合い、楽しく、助け合いができる

人間関係が希薄になってきたと言われるが、こうした意見が多いのは高等学校山岳部における成功体験が大きいのかもしれない。「藤枝東そのまま」や「いまの東桜の山岳部のような」など、自分の部を誇りに思い、愛していることが伝わってきて微笑ましい。

3) 競技としてでない登山、勝つことだけにこだわらない

意外と多かったこれらの意見。大学山岳部が競技登山をおこなう部だと誤解している生徒さんが多いように感じた。

4) 山の知識、技術向上、安全対策や危急時対策が万全、またはそれらを学べる

24や29と共通するところであるが、大学山岳部を目指す学生は、これらを学ぶ場として山岳部を期

待していると思われる。

5) 遠くに行ける、合宿がある、海外の山に行ける少数ではあるが、このような積極的な意見もあった。

6) 経済的な支援が得られる

大学によっては、大学側から装備や交通費などに対して活動補助費のようなものを支給されるところがある。しかしながら、これらは学生またはその親御さんが血の滲むような思いで支払った学費からいただくもの。「お金が貰える」などの意見があったのは残念なことであった。

31.まとめ

おかげで高校山岳部の生徒さんたちが卒業後にどのような山登りを考え、どのようなスタイルで登山を続けたいか、大学山岳部に何を求めているかなどを知ることができた。これも皆様のご協力のおかげであり、改めて心から感謝申し上げる。

大学山岳部としては、30.自由意見のうち2)から5)の生徒さんに満足していただける組織を作り上げていくことが肝要かと思う。そのためには必要なことは、

1. 監督、コーチが最終的な安全管理をおこないつつも、学生の自主的な活動であること
2. 明るく、楽しい雰囲気作り。助け合いができる、皆が力を合わせて目標を達成できる
3. 登山の技術、危急時対策などをしっかりと学べる部

これらを実行していくことが大切だと感じている。自由意見の中に「非日常の楽しさをたっぷり感じられる活動」「絶景を心から楽しめ、練習から意識の高い山岳部」「顧問や先輩後輩関係なく一人一人の繋が

1. 登山に関する調査研究

りが強く、こういう人たちとだったら山に登りたいと思えるような山岳部」「自然に抗わず、汚さず、自然の中で生きていくことを学べる部活」などの意見だったが、こうしたことを実践していく山岳部だったら多くの高校生が山岳部を目指したいと考えるようになるかもしれない。その中で、「楽しく」ということがキーワードのように思える。私も「空の百名山」というプロジェクトで、空を見ることの楽しさを伝える活動をしているが、楽しくなければ人間はなかなか学ぼうとしないし、興味を持つことはない。空を見ることに興味を持つことが天候の急変を早めに察知し、早めの避難行動につなげることにつながることから、このような活動を行っている。山岳部での活動は、体力的には厳しいことも多く、冬山における厳しい自然条件に泣きそうになることもあるが、それを皆で励まし合いながら、冗談を飛ばしながら、楽しく登ることができたら、そうしたきっかけの後にある充実感にたどりつけるのではと感じた。

一方、1) を求める生徒さんが圧倒的多数を占める中で、「自由」の意味を「自分だけの自由」、あるいは「恣意的な」「なんでもやっていい」と誤解する傾向があることを危惧している。グループで登山をしていて一人が遅れても振り返りもせずに登り続けてしまふ、という事故や単独登山での事故が増えていることも事実である。「自由」に登るといつても自分や同行者の安全に対する責任はあり、そのためには最低限の体力や経験、技術が必要だと思う。

「最低限」の体力、経験、技術を学ぶ場、あるいは冒険的な登山をしたい者がその土台、基礎の部分を作り上げるのが大学山岳部だと思っているが、大学山岳部がこうした傾向の生徒さんとどのように関われるのかどうか（必ずしも入部することではなく、入部しなくとも関わられる方法はあると思う）

について改めて考えていこうと思った。また、山岳気象を提供し、登山における安全啓蒙をおこなっているヤマテンとして、こうした登山者に何を伝えていけるのかということを考えさせられた。

高校山岳部の生徒さんのほとんどが、高校山岳部での活動に満足しており、山岳部の活動から貴重な経験を得ていることも分かった。これは、大学山岳部の指導者として非常に興味のある結果である。次回は、高等学校山岳部の指導者の皆様とオンラインなどで意見交換会などを行い、指導方法や学生とのコミュニケーション方法などを尋ねたいと思った。大学山岳部の魅力を高校山岳部の生徒さんに伝えるために、交流事業や高校山岳部の生徒さん向けの説明会、あるいは動画配信なども考えたい。その際には先生方にご相談させていただき、お知恵を拝借させていただくとともに、ご協力いただければ幸いであります。

ありがとうございました。